

いたたまれずに行ってきました。

大野 勉

＜思い＞8月9日（日）の深夜から、播磨北西部に降り続いた大雨が、猛威を振るいました。8月17日現在兵庫県内で20人死亡、今もなお2人が行方不明。

震災の記憶を忘れない神戸市民として、いたたまれなくなって、13日に出かけてきました。

＜調べ＞11日から、ボランティアの受け入れについて調べていたのですが、なかなか見つからず、12日の夕方ニュースで「ボランティアの受け入れが始まった」ということで、佐用町の福祉協議会に電話が通じ、13日に出かけたのです。

＜タイミング＞本来は、3月に亡くなられた仲人さんの初盆参りを予定していたのですが、お出かけのため14日に変更。「1日空いた、よし行こう！」と息子を誘って出かけました。

＜行程＞5時起床：朝食をとって6時に出発。山陽自動車道に乗ろうと思ったのですが、折から帰省による渋滞の表示。第二神明、加古川バイパス、姫路バイパスは順調、太子バイパスを福田ランプで下り、北へ。竜野市街を通り抜け国道179号線姫新線沿いをさらに北へ。意外と空いていました。8時15分着。ボランティアセンターにて諸手続きを済ませ（1時間かかる）、息子と、西明石から来られた男性2人合わせて4人で9時15分に被災地へ向かう。渋滞のため、10時15分に着。

＜活動内容＞山下さんの家は、もうすでに畳を上げ、床板もはずし、床下の泥はほとんど外に出されていました。が、それ以外は、やっと水が引いただけ、という状態。川の水が床上150cmあたりまで来たのです。家財道具は全て使い物になりません。ボランティアセンターの手違いがあったようで、我々4人より先にすでにボランティアが4人来ていました。合わせて8人で作業をしていきます。一輪車で捨てるものを積んで、ひたすら運ぶ。ゴミ捨て場に捨てる。積む、運ぶ、捨てる、のくり返しです。1時間以内に必ず1回は休憩をとるように言われていたので、午前中に2サイクル活動。「午後ま



（帰りの車内からこっそり撮らせていただきました）

で持つかしら？」と不安。

でも、被災地の方の気持ちを思うと、体の底から力が湧いてくるのです。45分程度休憩して、午後からは、床板のぞうきんがけ等も手伝う。2サイクル活動し、2時30分には引き上げさせていただきました。

たった一日のお手伝いで申し訳ない気持ちを残しながら、佐用町を後にしました。



（川からさまざまな物が陸揚げされ田んぼに被害）

＜まだまだ足りない支援、さあ、どうする？＞

5年前にもあった。あの豊岡、出石、淡路島の水害。実は、その時も佐用町は被害に遭っていたとのこと。ああ、何とっていいのか？

まだまだ被災地に安心は訪れない。同じ兵庫県内に住む方々のために、できることを見つけ、できることから始めたい。

このように報告させていただくのは、これを読んでいただいたあなたと共に、何かを始めたいからです。

あちこちに災害がありすぎて、鈍感にならないように、日々自分に「あの日の感謝の気持ち」を忘れないように言い聞かせている大野ベンでした。